

令和 4 年 6 月 29 日現在

機関番号：37103

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2019～2021

課題番号：19K02774

研究課題名(和文) 絵本/現代アート/ICT 領域横断によるアクティブラーニング型保育者養成の構築

研究課題名(英文) <Picture Book/Modern Art/ICT> Cross-Disciplinary Research for Nursery Teacher Training with Active Learning

研究代表者

谷口 幹也 (TANIGUCHI, Mikiya)

九州女子大学・人間科学部・教授

研究者番号：30335830

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,100,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、絵本、現代アート、ICTに共通する本質として「Playful」を抽出し、デザイン思考に基づくアクティブラーニング型保育者養成カリキュラムを開発した。Playfulとは「本気でものごとに関わっている時に感じる興奮と楽しさ」を意味する。本研究の成果及び開発物は以下のとおりである。「絵本」から着想する「遊びに夢中なる」保育環境づくり、「絵本の楽しさを伝える動画作成」による授業法の確立。現代アートに見出す「遊び」と「本気」に触れる授業法の確立。ICTを活用したアクティブラーニングの基礎理論を学ぶオンデマンド授業用コンテンツの開発と学修支援サイト「Playful Place」の構築。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の学術的意義は、「絵本」「現代アート」「ICT」それぞれが持つ特性を領域横断的に接続しアクティブラーニングへと昇華したことである。社会的意義は、本研究のプロセスを保育者養成校における授業内容へ反映させ、領域横断的な視点から今日の保育者養成に必要な資質涵養、技術習得を促進する実践的なプログラムを開発し、アクティブラーニングの基礎理論を学ぶオンデマンド授業用コンテンツ、学修支援システム「Playful Place」を開発したことである。

研究成果の概要(英文)：We researched a nursery teacher training from three viewpoints, that is picture books, contemporary art, and ICT, and developed an active learning type curriculum based on a common feature "Playful" among those viewpoints. In this research we considered "Playful" to be an excitement and fun feelings when people immersed themselves in something that they were doing. The results and achievements are as follows:
(1) Establishing a lesson method by creating a childcare environment that "engages in play" inspired by "picture books" and by "creating videos that convey the joy of picture books". (2) Establishing a lesson method that touches the "play" and "passion" found in contemporary art. (3) Development of on-demand lesson content to learn the basic theory of active learning utilizing ICT and construction of a learning support web site "Playful Place".

研究分野：芸術教育学

キーワード：絵本 現代アート ICT アクティブラーニング 保育者養成 プレイフル

1. 研究開始当初の背景

平成 29 年度に告示された学習指導要領、幼稚園教育要領において「主体的・対話的で深い学び」の必要性、個人と社会の成長につながる新たな価値を生み出すための教育の確立と、他者と協働し課題を解決するための力の育成という課題が示されている。これらの課題を鑑み、現在、往々にして「学び」と「遊び」の消費者にとどまっている学生を、主体的な学習者及び「自律した保育者」として成長するよう促すためには、どのような教育が保育者養成系大学において必要であるかが問われ、その具体的なカリキュラムが求められている。そして次の二つの課題、多様性を原動力とし質的な豊かさを伴った個人と社会の成長につながる新たな価値を生み出すための教育保育の基盤確立。保育者養成カリキュラムにおける他者と協働し課題を解決する能力涵養の場を具体化。これらの課題を解決するための方途を、私たちは「絵本」「現代アート」「ICT」に見出した。

2. 研究の目的

本研究では、絵本の感性と思考を育む特性、現代アートが示すコラボレーション、イノベーションといった特性、ICTが持つ思考を蓄積伝達する特性に着目し、領域横断的に研究を推進することによって、今日の保育・教育者に必要とされる「『環境を通して行う教育』を実践する資質能力」「学び成長し続ける力」を涵養する保育者養成カリキュラムを開発するものである。具体的には学生が主体的に企画運営する幼児対象のふれあい遊び体験事業の実践を基軸とし、実践と検証の蓄積、ICTの活用による、保育者養成における「学び」の質向上に寄与するアクティブラーニング支援システムを開発する。研究プロセスを保育者養成校における授業内容へ反映させ、領域横断的な視点から今日の保育者養成に必要な資質涵養、技術習得を促進する実践的なプログラムを構築する。

3. 研究の方法

本研究が期間内に明らかにする内容と到達目標は以下に示す ～ である。

1 絵本の特性とアクティブラーニング型保育者養成

絵本が持つ、人と人をつなぐメディア機能、感性・思考・心情を育む「保育内容」を網羅する機能に関する調査を行う。学生がアクティブラーニング型授業で実施される初年次教育「スキルアップ講座J」において絵本を基軸とした知識経験を蓄積・再構成する方法を開発する。

現代アートの特性とアクティブラーニング型保育者養成

新たな技術、新たなものの捉え方、人間の創造性の更新する現代アートに注目し、現代アートの内容研究、先行研究の精査を行う。現代アートの特性を探求し保育者養成のためのアクティブラーニング型も授業法を開発する。

ICTの特性とアクティブラーニング型保育者養成

ICTの保育者養成における活用法を探求し、学生、保育者が継続的に学びを行うためのアクティブラーニング支援システムを開発する。保育内容、保育実践スキル学修のためのICTを活用した学修教材、学修支援ツールを開発する。

絵本/現代アート/ICT 領域横断によるアクティブラーニング型保育者養成の構築

1～ の研究成果をもとに、学生が主体的に企画運営を行う幼児を対象とするふれあい遊び体験事業の運営を主軸とするアクティブラーニング型保育者養成プログラム、初年次教育「スキルアップ講座J」を実施する。保育者に必要となる「環境を構成する力量」「出会いと学びの場を企画運営する力量」「保育実践を省察する力量」を形成する尺度を策定し、学修支援ツール、学修成果アーカイブを開発する。保育者養成カリキュラム「初年次教育」「図画工作」

「保育内容（表現）」等の授業法を開発する。

4．研究成果

本研究の成果及び開発物は以下のとおりである。

1 絵本 の特性とアクティブラーニング型保育者養成

「絵本」に関する先行研究の分析から、「絵本」には、育ちと学び（保育内容5領域）の重要な要素が網羅されていることを確認し、学生一人ひとりの絵本に関する思い出を収集した『私の大切な絵本の思い出』（2020）を作成し、絵本は保育者にとって成長の糧であり生涯の友であることを明らかにした。絵本の中には、Playfulが込められていることを学生アンケートと先行研究の調査から明らかにし、「絵本」を基盤としたアクティブラーニング型保育者養成プログラム「幼児対象のふれあい遊び体験事業＝子どもまつり」、「絵本の楽しさを伝える動画」づくりの授業法を確立した。

現代アート の特性とアクティブラーニング型保育者養成

主体的な学習者及び「自律した保育者」として成長するよう促すためには、どのような教育が必要であり有効なのか。そして学生の「遊び」に関する知見をどのようにして深め更新することができるのか。これらの問いを念頭に置き、現代アートに関する調査分析を行った。その結果、現代アートは、人間の尊厳、個人の自由、新たなもの見方、捉え方を示す重要な活動であることを明らかにし、現代アートに内在する「遊び」、「遊びこむ人間」の姿を作品分析、作家から抽出した。その成果を『私からはじまる、私から広がるアート・エデュケーション』（中川書店、2021）にまとめ、保育者養成カリキュラム内においてアートを学び体験することの重要性を明らかにした。具体的には保育者養成カリキュラム内の大学一年次「図画工作」において、「Playful Art＝造形遊び」を重視し授業展開を行い「本気」、「夢中」、「試行錯誤」を体験し、広く豊かなアートに向き合い出会う授業法を確立した。

ICT の特性とアクティブラーニング型保育者養成

ICTに関する先行研究の収集と精査を行いアクティブラーニングへの応用のための基礎研究を行った。授業支援システム「WebClass」、「UNIVERSAL PASSPORT」のを活用した学生同士の学びの共有、反省の支援方法を開発した。保育者に必要となる「環境を構成する力量」、「出会いと学びの場を企画運営する力量」、「保育実践を省察する力量」の三種の力量を計測検討するため尺度を策定し、学生が「WebClass」、「UNIVERSAL PASSPORT」に蓄積したドキュメンテーションの分析を行った。「絵本の楽しさを伝える動画」づくりの授業法、アクティブラーニングを実践するための基礎理論、実践法を学ぶICTを活用したオンデマンド学習のコンテンツを開発した。

絵本/現代アート/ICT 領域横断によるアクティブラーニング型保育者養成の構築

本研究では、絵本、現代アート、ICTに共通する本質として「Playful」を抽出し、デザイン思考に基づくアクティブラーニング型保育者養成カリキュラムを開発した。本研究では、ICT学修支援システム「WebClass」、「UNIVERSAL PASSPORT」に蓄積された学生のドキュメンテーションをテキストマイニング等の分析を通して、PBL型協働学修における学修効果や体験の深化を促す可能性の示唆が明らかにし、アクティブラーニングの基礎理論を学ぶオンデマンド授業用コンテンツの開発、学修支援システム「Playful Place」を開発し、アクティブラーニング型授業で実施される「初年次教育/スキルアップ講座 J」、「図画工作」、「保育内容（造形表現）」の大学授業、保育者養成カリキュラムを開発した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計5件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 村上太郎、小林哲生	4. 巻 第57巻2号
2. 論文標題 絵本の絵を定量的に分類する尺度作成の試み	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 九州女子大学紀要	6. 最初と最後の頁 pp. 79-86.
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藤原伸彦	4. 巻 第18号
2. 論文標題 授業実践映像に基づく省察を支援するICTの活用	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 鳴門教育大学情報教育ジャーナル	6. 最初と最後の頁 pp.57-60
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 村上太郎、奥村優子、服部正嗣、藤田早苗、小林哲生	4. 巻 56
2. 論文標題 絵本を題材とした活動が絵本への関心や知識に与える影響：保育者養成校におけるICT導入の試み	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 九州女子大学紀要	6. 最初と最後の頁 39-47
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 村上太郎、小路由紀乃	4. 巻 56
2. 論文標題 幼児における絵本の表紙選択の発達の検討：幼児の好む表紙と大人が読んであげたい表紙は一致するか？	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 九州女子大学紀要	6. 最初と最後の頁 49-59
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 村上太郎・中村紗和子・谷口幹也	4. 巻 vol. 119, no. 394
2. 論文標題 大学初年次における社会的スキルの自己認知・協同作業・批判的思考との関連 ~教員養成課程におけるグループワークを通じた心理的变化~	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 信学技報, 電子情報通信学会	6. 最初と最後の頁 123-128
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計2件 (うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件)

1. 発表者名 谷口幹也、藤原伸彦、今津尚子、中村紗和子、村上太郎
2. 発表標題 絵本/現代アート/ICT 領域横断によるアクティブラーニング型保育者養成の構想
3. 学会等名 日本保育学会九州・沖縄地区第4回研究集会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Tomohiro Nabeta, Taro Murakami, Sawako Nakamura, & Mikiya Taniguchi
2. 発表標題 Influence of collaborative learning on the acquisition of metacognitive skills via learners' social skills.
3. 学会等名 XVI European Congress of Psychology, Moscow, Russia.
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 谷口幹也	4. 発行年 2021年
2. 出版社 中川書店	5. 総ページ数 160
3. 書名 私からはじまる、私から広がるアート・エデュケーション	

1. 著者名 監修：八木正一 編著：竹内貞一 著者：松本哲平、山中文、中村紗和子、城佳世、岡村彬子、伊藤久恵、森薫、松井いずみ、吉田梨乃、岩井真澄	4. 発行年 2020年
2. 出版社 大学図書出版	5. 総ページ数 184
3. 書名 保育者養成のための音楽表現～模擬実践をとおして学ぶ	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>科研費を使用し発行した保育者養成用テキストは以下の通りである。 『子どもと学ぶ 絵本/現代アート/ICT 領域横断によるアクティブラーニング・プログラムの開発』(2019) 『私の大切な絵本の思い出』(2020) 『Playful Place! 本気で遊ぶ、本気で学ぶ保育・教育者養成の提案』(2022)</p> <p>学修支援システム「Playful Place」URL https://www.playful.place</p>

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	佐藤 紗和子 (SATO Sawako) (20747422)	九州女子大学・人間科学部・講師 (37103)	
研究分担者	村上 太郎 (MURAKAMI Taro) (20762074)	九州女子大学・人間科学部・准教授 (37103)	
研究分担者	藤原 伸彦 (FUJIHARA Nobuhiko) (60333564)	鳴門教育大学・大学院学校教育研究科・教授 (16102)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分 担 者	今津 尚子 (IMAZU Shoko) (80817073)	九州女子大学・人間科学部・准教授 (37103)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関